

映像情報を用いた議会研究の革新と挑戦

政策研究大学院大学 政策研究科 教授

増山 幹高

(お問い合わせ先) TEL : 03-6439-6101 E-MAIL : clip@grips.ac.jp



研究の背景

国会の会議録は書き言葉として整文されたもので、文字にならない多様な情報を捨象しています。一方、国会はテレビ中継され、審議映像はインターネットで配信され、時間・場所を問わず視聴できるようになっています。議員もカメラの先の国民の視線を意識し、視覚的にアピールするようになっています。この研究では、映像情報を活用することにより、議会の多様な時空間を解明していきます。

研究の成果

国会審議映像検索システム (<http://gclip1.grips.ac.jp/video/>) は、会議録と審議映像をリンクさせ、発言のキーワード検索から映像をピンポイントで再生するものです。具体的には、音声認識によって審議映像の時刻を会議録に付与し、発言単位の映像再生を可能にするとともに、会議録を字幕として利用します。こうした試みは世界初のものであり、例えば、「○○議員が△△と国会で発言」と報道されたとき、「○○ △△」で検索すれば、その瞬間の映像を部分再生できます。すると、議員の表情や会議の流れ、臨場感が把握できるだけでなく、視聴覚に問題があつても、会議録を読んだり、音声にするのではなく、映像を活用して国会審議を理解することができます（図1）。

発言単位の審議映像URLを表示しているので、動画を保存・編集することなく、映像をインターネットで共有することも簡単です。インターネットで配信されるニュース関連の審議映像URLをツイートしたり、議員名やトピックごとに検索結果を発言集とすることもできます。会議録に「パネルをご覧ください」とあっても何のことかわかりませんが、この研究ではキーワード検索と画像のパターン認識を組み合わせることで、審議の要点を示す参考資料を抽出し、文字認識によってデータベース化しています（図2）。

図1 国会審議映像のキーワード検索・部分再生

今後の展望

会議録にはヤジも拍手も記録されません。この研究では、文字と映像を結びつけています。音声認識結果と会議録を比較することによって議論の熱気を分析したり、議員の表情を認識することによって感情の起伏も分析することが容易になります（図3）。映像と文字の音声認識による同刻には多様な応用可能性があり、地方議会 (<http://gclip1.grips.ac.jp/local-assembly/>) や外国議会への応用も試みます。議会情報がいかに利用されるかは、政治制度や言語的な社会環境、国民の政治意識によって大きく異なります。この研究では、学術研究機関が議会の情報発信に寄与する先駆的なアプローチを世界に向けて提案していきます。

関連する科研費

- 2010–2014年度 基盤研究(S)「政策情報公開の包括化・国際化・ユニバーサル化」
2015–2019年度 基盤研究(S)「政策情報のユニバーサル化・国際化に関する実証と実践」



図2 視覚的情報の抽出・データベース化

